第2回 南海トラフ巨大地震等に対応した支援物資物流システムの 構築に関する四国ブロック協議会（最終回）

【議 事 要 旨】

日時：平成25年3月11日（月）13：30～15：30

場所：サンポートホール高松（6階）61会議室

議事次第

1. 開会

2. 議事

- （1）広域災害時における官民の連携・協力体制の充実について
- （2）一次物資拠点の充実強化について
- （3）支援物資物流の定量的評価について
- （4）実地訓練（2月23日、南国市）の評価と課題について

3. その他

議事概要

- （1）広域災害時における官民の連携・協力体制の充実について
- （2）一次物資拠点の充実強化について

●事務局

【資料1：広域災害時における官民の連携・協力体制の充実】説明

【資料2：一次物資拠点の充実強化】説明

- （3）支援物資物流の定量的評価について

●事務局

【資料3：支援物資物流の定量的評価】説明

○出席者（県）

- ・現時点では、屋内施設での物資保管は想定していないが、広域で被害が発生する可能性があるため、屋内施設をもう一度検討していきたい。
- ・広域物資拠点が河川敷等にあるが、被災した場合には、屋内の一次集約拠点は必要であり、今後の検討課題だ。
- ・広域物資拠点はすべて運動公園のグラウンドである。昨年度、エアテントを使用した物資の搬送訓練を実施したが、やはり風雨に弱い。来年度は計画を見直し、災害

時の拠点として新たに屋内型の公共施設を中心に選定することになると思う。

- ・総合防災拠点として、広域4箇所と地域4箇所を選定しているが、実際の運用はこれからの課題。海岸線に道路が一本しかないという所が多々あり、ルートの問題も大きな課題。総合防災拠点の運営そのものについて、来年度から検討予定。

○出席者（協会）

- ・拠点について、実際の運営については現状では非常に難しい。常日頃から相当な準備を進めないと対応できず、大手の会員事業者に協力を求めていかざるを得ない。
- ・当地区は比較的地震の影響が少ないと思うが、原発等の関係もありどういう事態になるかは未知数である。先日、休眠状態であった物流専門家の会議を再開した。今後、県の防災訓練と連動してより実践的なかたちで行いたい。
- ・発災時に、当協会会員のトラックが何台稼働できるかは、事前に把握できない。台数が足りなければ他県に応援要請することも考えておく必要がある。
- ・会員には災害時の協力をお願いしている。今後の物流システムの構築により、どの地区のどの事業者を使うかが決まるので、各地区に話を進めていきたい。
- ・県の総合運動公園はグラウンド利用であるため、できるだけ早く公的な屋内の保管施設を確保したほうがよい。保管場所も大事だが、フォークリフトをどれだけ調達できるかということも含め、作業性も考慮しておかなくてはならない。

○出席者（物流事業者）

- ・発災時にも平常業務があり、何台の車を出せるかを把握するのは難しい。まず、四国内で連携を取り、中国や関西と連携しながら車両の確保を行う必要がある。
- ・全国から車両をかき集めることは可能。フォークリフトがない保管場所などでは、ロールボックスパレットというものなども視野に入れてはどうか。
- ・屋内施設は通常業務の荷物が多く、作業するのは現実的には不可能。40フィートのコンテナを使うなど即座に対応できるやり方を検討することも必要。
- ・人員、車両、荷扱い場所等をどれだけ提供できるかは、実際に災害が起こってみないと分からない。通常業務を行いながら、物資の保管というのは非常に難しい。
- ・一次物資拠点について、拠出可能な面積が不足する場合もあり、拠点数をもう少し増やしてはどうか。
- ・リフトについて、広域物資拠点では実際に使用できる設備（電源等）を整備していく必要がある。
- ・拠点の確保という意味で、対象をもっと幅広くした方が良いのではないか。車両やフォークリフトについて、全て燃料が必要なので、燃料の確保に留意が必要だ。

（4）実地訓練（2月23日、南国市）の評価と課題について

●事務局

【資料4：実地訓練のとりまとめ】説明

○高知県

【実地訓練補足説明】

その他

○事務局

【参考資料1：支援物資輸送システムの考え方】説明

【参考資料2：東北地域における災害に強い物流システムの構築に関する協議会成果物リスト】説明

○座長

- ・協議内容、今年度の取りまとめについて、【資料5：四国における災害に強い物流システムの構築（とりまとめ概要案）】により説明。

本日のご意見のなかで「災害が実際に起こってみないと分からない」という意見が多々あった。通常業務であればPDCAサイクルを回して徐々に改善していくことが可能だが、災害に関してはPまでしかできないため、訓練等を通して擬似的にDCAを回してPにフィードバックしていくということが大事。

この協議会を通じて一定の成果をあげられたと思っている。

ぜひ今後ともご協力をお願いしたい。

閉 会

以上